

## 「和」をもって尊しとなす。 新時代「令和」の世も、基本を貫いて。

国分ロジスティクス株式会社の船橋流通センターの庫内作業業務を柱に、千葉県内のローソン店舗へのドライ食品輸送を担う根岸運輸株式会社は、昭和35年12月の創業以来、「和」の精神を貫き荷主からの信頼を勝ち得てきた。



国分ロジスティクス(株)船橋流通センターの庫内作業業務を担う根岸運輸、トレードカラーのブルーの中型トラックが並ぶ

### 社員の高定着率が、高い輸送品質と荷主の信頼の基

根岸運輸株式会社（根岸俊夫代表取締役）は、昭和31年、千葉県銚子市、勝浦市などの生魚商組合の依頼により、船橋市の鮮魚商への鮮魚の荷渡しを始めたことから「根岸運送店」として産声をあげた。同35年12月12日には、一般小型貨物自動車運送事業の免許を受け、運送事業者として本格的に事業を開始し、同39年には、有限会社根岸運輸へ。同44年には、船橋市中央卸売市場の開設に伴い、鮮魚荷扱い付属営業人（市場内の物流・流通加工）を行うほか、同50年から現在まで、荷主企業の流通センター庫内作業やドライの食品輸送を中心に業務を発展させてきた。



根岸 俊夫代表取締役

「私は、父から会社を引き継いで2代目となりますが、当時父が病弱であったことから、大学を1年で中退して19歳という若輩で会社を継ぐことになりました。当時は、2トトラック3台と4人の従業員で、私は経験も荷主もなく、まさに文字どおり『人、モノ、金』の、ないない尽くしのスタートでした。それからの厳しい10数年を耐える中、今の弊社の屋台骨となる社員たちが入社し始め、ようやく現在の原型となる会社としての姿が見えてきました」（根岸社長）  
会社も軌道に乗り、「これから」という平成の初め



次代を担う専務取締役の根岸太二氏（左）と根岸社長

頃、それまで25年も続けてきた荷主企業の流通センター庫内業務と食品輸送について、荷主企業同士の吸収合併などで体制が変わり、同社は撤退を余儀なくされ、一気に業績が悪化した。この影響で手塩にかけて育ててきた仕事と社員を、泣く泣く整理しなければならなくなった。

根岸社長は、社員の採用には必ず自分で面接を行うことにしている。それは、これからその社員の人生のほとんどを同社で過ごしてもらい、また、その社員の仕事ぶりで同社の命運も左右されるからだ。採用した後は、根岸社長を含め、同社黎明期から屋台骨となってきた先達が懇切丁寧な指導し、時には



倉庫の自動ラックから搬出された荷物を電動フォークリフトでリフトアップ



店舗ごとにピッキングされた商品がロールボックスパレットに積み込まれる



最終的検品を経て、コンビニエンスストア店舗配送用のトラックに積み付けられる

厳しく、時には優しく、親身になって指導・教育する。いわゆる「現場からのたたき上げ」の幹部がそろっているため、先達の指示も「説得力」があり、トラブルがあっても長年の経験と即応体制が整備されていたため、社員からは「働きやすい職場」として評価も高く、高定着率を誇っていた。その安定期に訪れた危機に、根岸社長がとった選択とは意外なものだった。

「会社の危機に際して、全社員の顔を思いながら、それぞれの経験や能力などから総合的に判断して、『優秀で若い有望株』から順に人員整理することになりました。今、思い出しても苦渋の決断で忸怩たる思いです。しかし、整理対象の人達は『どこに出しても恥ずかしくない』『どんな会社でも通用する』と判断したからです。当事者達には、私が1人ひとり面接し意向を分かってもらいました。一時期戦力は確かに低下するかも知れませんが、しかし、残った幹部が必ずやもう一度盛り返してくれるということも信じていました」(同)

人員整理と聞くと、トラブルなどマイナスのことばかりイメージするが、根岸社長が後に耳にするところによると、整理対象となった人同士で、「根岸組」と称し定期的に会い親交を深めていたという。また、しばらく間を空けて、根岸社長に近況報告もあったという。これも、すべて根岸社長が会社運営の基本とする「和」の精神を重んじてきたからであろう。

根岸社長は、常に作業着で現場に出向いて社員に声をかけ、仕事を離れば、社員の奥さんの誕生日に花束と感謝の手紙を贈り、社員を支える内助の功に感謝の意を伝えていた。

同社で勤続ナンバーワンはもちろん根岸社長だが、勤続約40年が4人も在籍している。さらに、勤続20年以上が6人、同15年以上が8人、同10年以上が7人と、実に正社員のうち約過半数が10年以上だという。

「トラック運送事業は、典型的な労働集約産業といわれています。それだけに、仕事の質も評価も、そして会社の信用も『人』が創り出すものと考えています。今後、AI（人工知能）が発達し自動運転等の技術が進化していくとしても、信用や信頼というものが人対人というアナログの関係性、世界で生みだされるものであることは変わりません。弊社の宝はまさに、それを生み出す『人』であり、社員こそが『最良の商品』なのです。企業として、どれだけ荷主企業にアピールできるか、他にない弊社だけの商品を生みだし、荷主や地域社会からさらに信頼を得ていくかが肝要です。新しい時代が『令和』となり、我々の目指す『和』が含まれていることも何かの縁です。この先、遠くない先には世代交代もありますが、長く安定的に事業を営むことも信用の1つ。今後も社員とともに『安全第一』で、信頼を得られ続ける会社でありたいと思っています」(同)

## ホットにゆーす

### 国土交通大臣表彰 ドライバー4人が受賞

毎年、秋に、「自動車関係事業に多年精励し、功績顕著である」とされる方に贈られる「自動車関係功労者国土交通大臣表彰」。トラック運送事業、バス事業、タクシー事業、そして自動車整備事業の経営者だけが受賞するものと思っている方がほとんどだと思うが、実は、トラックドライバーもその対象だ。経営者の受賞者数からすると圧倒的に少ないが、毎回数人が受賞の栄誉に浴している。勤続年数が長いことも条件だが、無事故・無違反で、また所属企業やトラック協会からの推薦も必要であり、大変ハードルは高い。根岸運輸(株)では、この栄誉に浴したドライバーがなんと4人も在籍する。この成果も高定着率のなせるわざであり、親身になって社員を思いやる根岸社長の願いが通じた結果である。



事務所には国土交通大臣表彰が多数飾られている。

#### 企業プロフィール

##### 根岸運輸株式会社

代表取締役 根岸 俊夫

千葉県船橋市湊町1-24-11

従業員 51人 (うちドライバー27人)

車両台数 25台